

第2章 市民意向の把握

1. 市民アンケート調査の概要

(1) 調査の概要

本計画では、公共交通に関する現在の市民の利用状況を把握するとともに、今後の公共交通施策に市民意向を反映するため、アンケート調査を実施しました。

■市民アンケート調査の概要

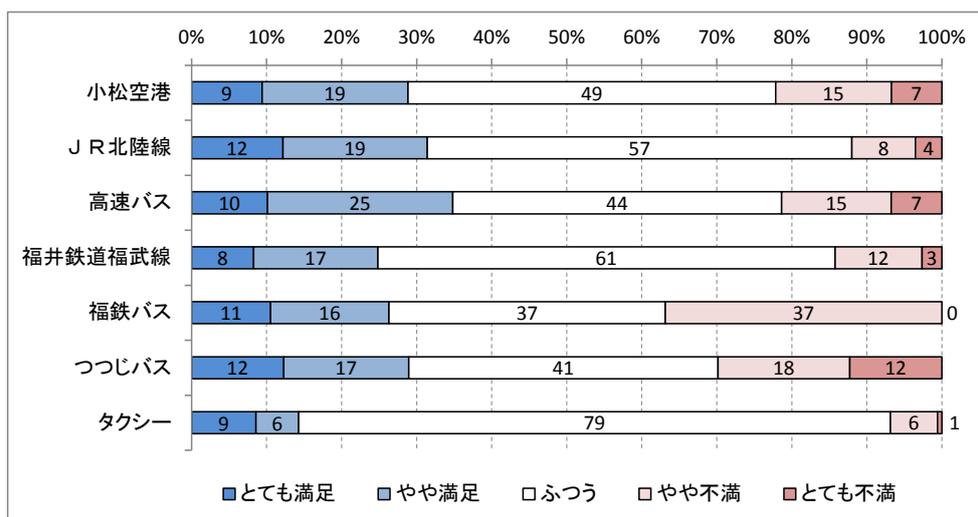
調査の対象	・ 鯖江市内に在住する 15 歳以上の市民の中から無作為に抽出した 2,000 人の市民とその同居の家族（15 歳以上）
調査票の配布・回収方法	・ 郵送
調査期間	・ 平成 27 年 8 月 5 日～平成 27 年 8 月 21 日
回収票数、回収率	・ 回収票数：612 票（必要標本数：397 票（標本誤差 5%）） ・ 回収率：30.6% （1 票で 4 名まで回答できるため、1,204 名が回答）

(2) 調査結果の概要

①公共交通の利用者満足度

現在、本市において利用できる公共交通手段について、利用満足度を尋ねたところ、「とても満足」の割合は、各交通手段とも概ね 1 割前後で大きな差はありません。「とても満足」、「やや満足」の合計で見ると、タクシーを除いて概ね 3 割程度になっています。

一方、不満については、交通手段による差が大きく、「とても不満」は、つつじバスが最も多く、「とても不満」、「やや不満」の合計では福鉄バスが多くなっています。



■公共交通手段別の利用者満足度（無回答除く）

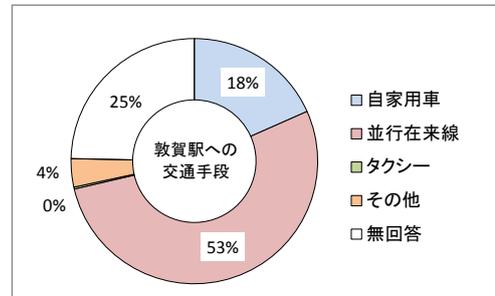
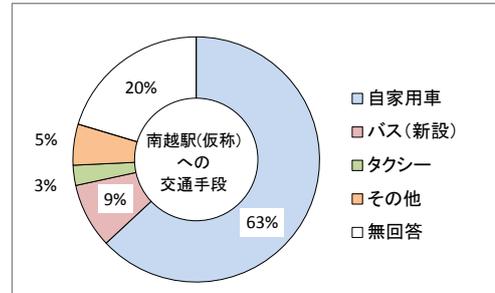
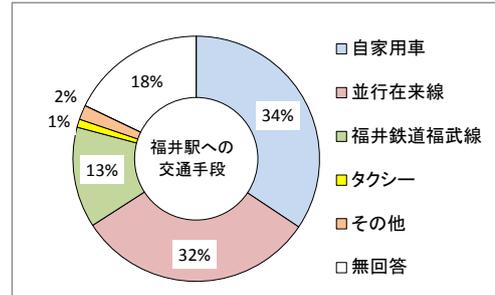
②北陸新幹線および並行在来線

a) 北陸新幹線敦賀開業後の利用交通手段

北陸新幹線敦賀開業後において、福井駅、南越駅(仮称)、敦賀駅を利用する場合の交通手段について尋ねたところ、福井駅を利用する場合には、自家用車と並行在来線がそれぞれ3割程度となっており、次いで福井鉄道福武線が多くなっています。

南越駅(仮称)については、自家用車が最も多く、6割を超えています。

敦賀駅については、並行在来線が最も多く、5割を超えており、自家用車の利用は少なくなっています。

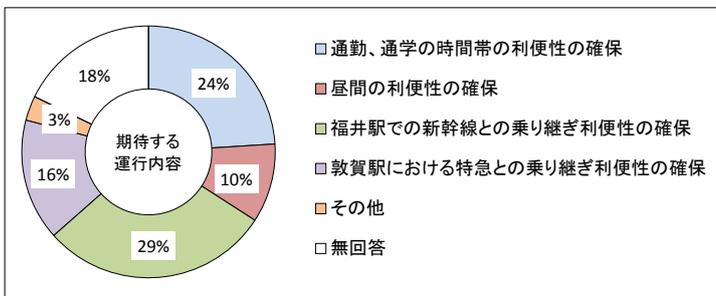


■新幹線開業後の利用交通手段

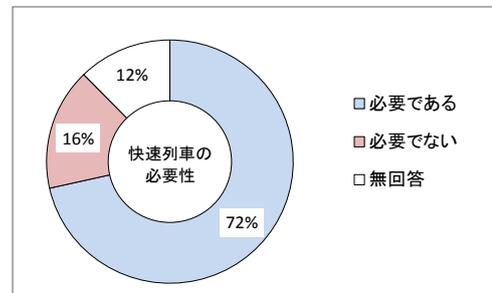
b) 並行在来線に期待する運行内容

並行在来線に期待する運行内容としては、「福井駅での新幹線との乗り継ぎ利便性の確保」が最も多く、次いで「通勤、通学の時間帯の利便性の確保」、「敦賀駅における特急との乗り継ぎ利便性の確保」が多くなっています。

また、快速列車の必要性については、「必要である」が7割を超えています。



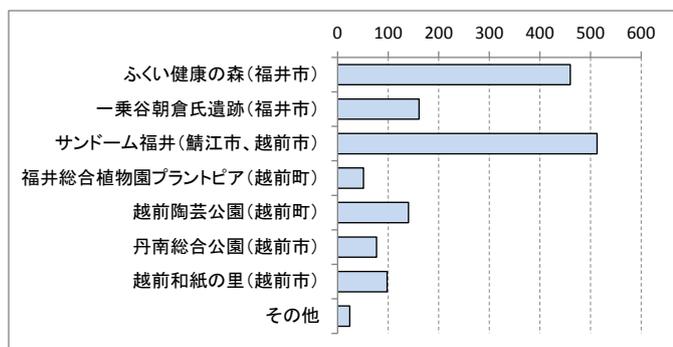
■並行在来線に期待する運行内容



■快速列車の必要性

③公共交通で接続できるとよい隣接都市の施設

公共交通による隣接都市との連携を図るうえで、公共交通で接続できるとよい隣接都市の施設について尋ねたところ、「ふくい健康の森(福井市)」、「サンドーム福井(鯖江市、越前市)」が多くなっています。

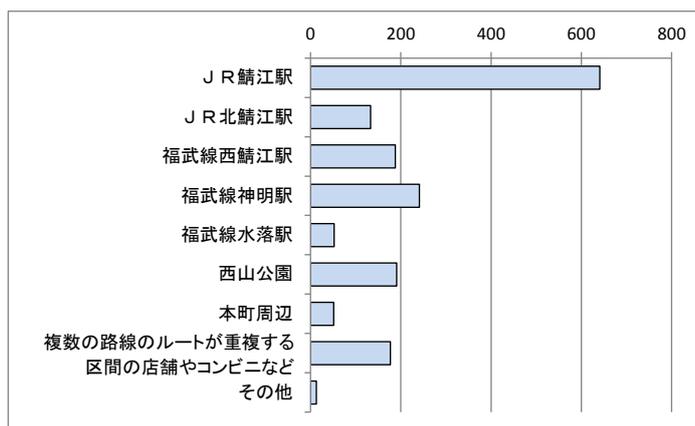


■公共交通で利用できるとよい隣接都市の施設

④つつじバスを乗り継ぐ場所

乗り継ぎに適している場所について尋ねたところ、JR鯖江駅が最も多く、次いで福井鉄道福武線神明駅となりました。

また、「複数の路線のルートが重複する区間の店舗やコンビニなど」も主要駅に次いで多くなっています。

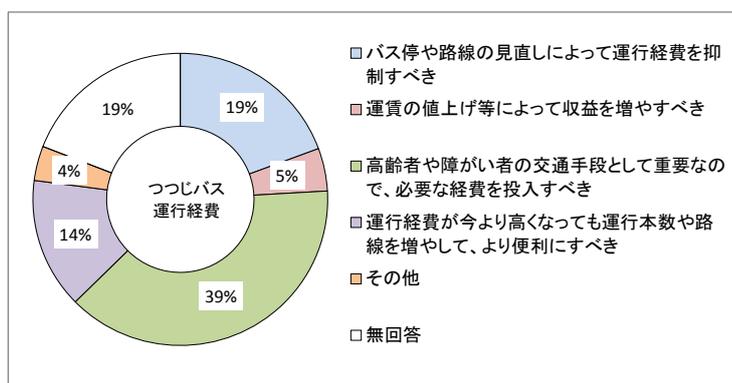


■つつじバスを乗り継ぐ場所

⑤つつじバスの運行経費

つつじバスの運行経費については、高齢者や障がい者の交通手段として重要なので、必要な経費を投入すべき」が最も多く約4割を占めています。

次いで、「バス停や路線の見直しによって運行経費を抑制すべき」が約2割を占めています。



■つつじバスの運行経費

⑥自由意見

公共交通を便利で快適に利用できるようにするために改善すべき点を尋ねたところ、多くの意見をいただきました。

特に、本市においては、日常の生活交通の基本交通手段が自家用車になっていることから公共交通利用者は少ないものの、公共交通は、高齢者や子供、学生をはじめ自動車等を利用できない人にとって重要な移動手段であり、安心して生活できる環境には不可欠なものであるとのご意見を多くいただきました。

また、具体的に以下の点に関する意見が多くありました。

- ・ 通勤通学の時間帯におけるつつじバスの運行
- ・ つつじバスの速達性の向上
- ・ 公共交通手段相互の乗継環境の改善
- ・ 公共交通手段に関する運行経路や運行時刻、料金等に関する情報提供
- ・ 初めて利用する人でもすぐに分かる利用環境の提供
- ・ 快適な待ち時間を提供する待合環境の整備（上屋、ベンチ等）
- ・ 観光交通に対するつつじバスの活用
- ・ 公共交通の利用促進に向けた周知、PRの強化

2. 高校生通学ルート調査の概要

(1) 調査の概要

本計画では、公共交通の主な利用層である高校生について、通学時における公共交通の利用状況を把握することを目的として、通常時と雨天時や冬期における通学手段について調査を行いました。

■高校生通学ルート調査の概要

調査の対象	・鯖江市内に位置する福井工業高等専門学校、福井県立鯖江高校、福井県立丹南高校の2年生
調査票の配布・回収方法	・各学校を通じて配布・回収
調査期間	・平成27年8月～9月
回収票数	・福井工業高等専門学校：186票 ・福井県立鯖江高校：176票 ・福井県立丹南高校：120票 (合計：482票 回収率92.0% (482/524人))

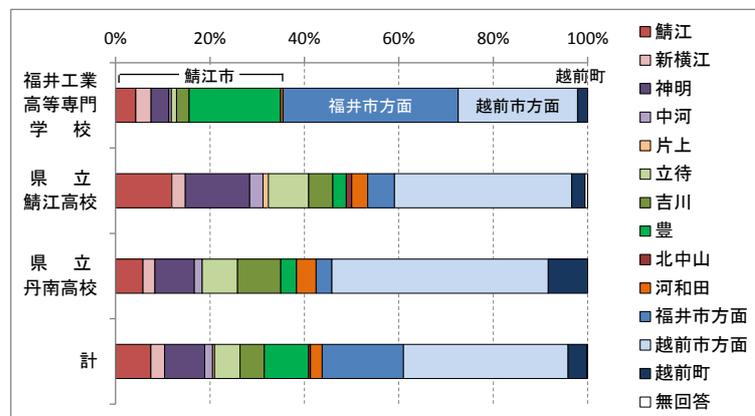
(2) 調査結果の概要

①生徒の居住地

福井工業高等専門学校は、市内居住者の割合が3校中で最も少なく35%となっており、そのうちの半数は学生寮のある豊地区となっています。方面別では、福井市方面が37%、越前市方面が25%を占めています。

県立鯖江高校は、3校中で最も市内居住者の割合が多く53%を占めています。地区別では、鯖江地区、神明地区が多くなっています。方面別では、福井市方面が6%と少なく、越前市方面が38%となっています。

県立丹南高校は、市内居住者の割合が43%で、地区別では、市全域に分布しており、若干ながら学校が位置する市域西部が多くなっています。方面別では、福井市方面が3%と少なく、越前市方面が46%、越前町が8%となっています。



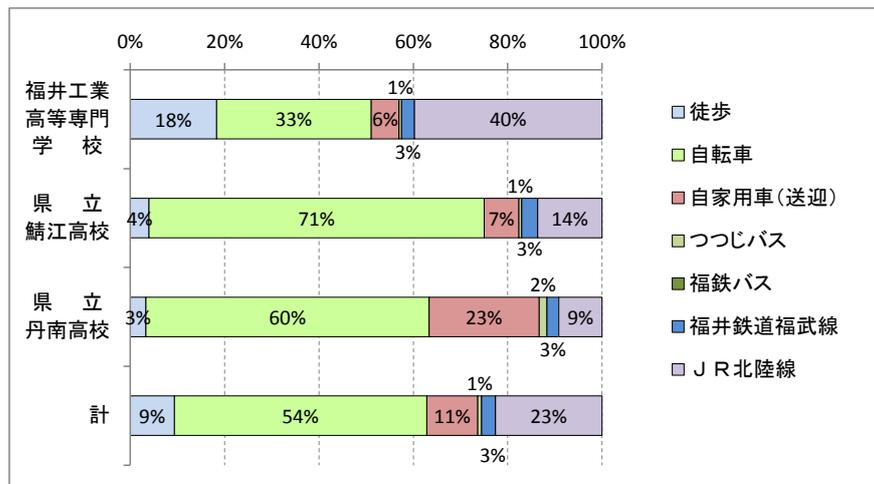
■生徒の居住地の分布状況

②通学時の代表交通手段

福井工業高等専門学校は、市外からの通学者の割合が多いことから、J R北陸線を利用する割合が多く 40%を占めています。次いで自転車の利用が多く 33%を占めています。また、学校に隣接して学生寮があることから、徒歩による通学が 18%を占めています。

県立鯖江高校は、自転車による通学の割合が最も多く 71%を占めています。公共交通については、J R北陸線を利用する割合は 14%、福井鉄道福武線を利用する割合は 3%と少なくなっています。

県立丹南高校は、鯖江高校と同様に自転車による通学の割合が最も多く 60%を占めています。また、自家用車(送迎)の割合が 3校の中で最も多く 23%を占めています。公共交通については、J R北陸線が 9%、福井鉄道福武線が 3%、丹南高校線のあるつつじバスが 2%となっています。

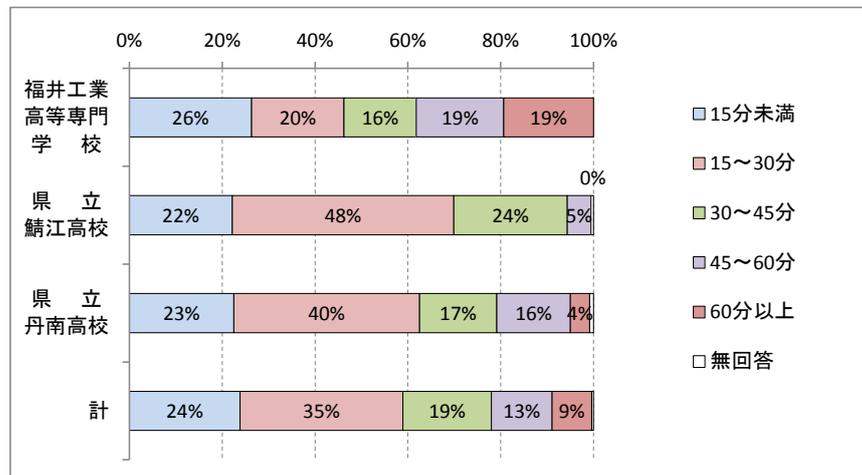


■通学時の代表交通手段

③通学時の所要時間

福井工業高等専門学校は、市外からの通学者の割合が多いことから、通学時の所要時間が 60 分以上の割合が最も多くなっている一方、学生寮があることで 15 分未満の割合も多くなっています。

県立鯖江高校は、通学時の所要時間が 60 分以上の割合が最も少なく、3 校の中では平均的な所要時間は最も短くなっています。



■通学時の所要時間

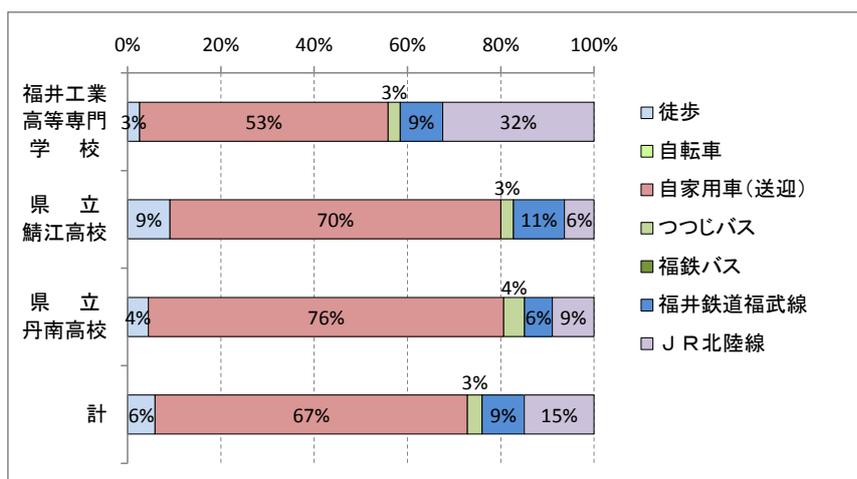
④雨天時、冬期における通学時の代表交通手段

雨天時、冬期における通学時の代表交通手段の変化をみると、天候に左右されやすい自転車利用者が通学方法を変更しています。

内訳は、自家用車（送迎）の割合が最も多く、次いでJ R北陸線、福井鉄道福武線が多くなっています。

また、J R北陸線や福井鉄道福武線利用者においても、鉄道の前後の交通手段として自転車を利用している学生が多く、つつじバスや徒歩に変更しています。

つつじバスの運行においては、天候による増発には対応していないため、J R鯖江駅での積み残しが発生することがあります。



■雨天時、冬期における通学時の代表交通手段

⑤公共交通に対する改善点（自由意見）

公共交通に対する改善点を尋ねたところ、多くの意見をいただきました。

特につつじバスについて、福井工業高等専門学校への通学路線である「豊線」、丹南高校への通学路線である「丹南高校線」について、J R北陸線や福井鉄道福武線との乗継の待ち時間の改善や運行本数の増便に関する意見を多くいただきました。

3. 関係団体等ヒアリング調査の概要

本計画の策定に関する関係団体等の意向を把握するため、ヒアリング調査を実施しました。ヒアリング内容の概要は、以下のとおりです。

名 称	概 要
J R西日本金沢支社 (J R鯖江駅、北鯖江駅)	<ul style="list-style-type: none"> ・ J R鯖江駅、北鯖江駅の利用実態 (朝夕の通勤通学が主体)、駅へのアクセス手段 (徒歩・自転車: 4割、自家用車: 5割 (送迎含む)、バス・タクシー: 1割) ・ つつじバスは、市民の利用ニーズを反映している一方、市民以外の利用者には複雑で分かりにくい印象がある
福井鉄道 (福武線、福鉄バス)	<ul style="list-style-type: none"> ○福武線 <ul style="list-style-type: none"> ・ 近年、通勤通学定期利用者が増加 ・ 駅舎、P & R駐車場、駐輪場、トイレ等のハード面は概ね整備済み ・ サンドーム西駅のトイレ整備が必要 ・ つつじバスとの接続は概ね問題なし ・ I Cカード乗車券の導入による利用環境の改善が必要 ○福鉄バス (鯖浦線、福浦線) <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者減少。朝夕の通勤通学を中心とした路線の再編が不可欠
つつじバス運行事業者 ・ 鯖江高速観光(株) ・ 鯖江交通(株) ・ 越前観光(株) ・ つつじ(株)	<ul style="list-style-type: none"> ○問題・課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 乗継の不便解消 (高年大学への乗継、新横江線、鯖江南線と中央線との乗継、河和田線と中央線との乗継) ・ 帰りの便までの待ち時間が長い、または帰りの便がない ・ バス停での待合環境の改善 (上屋、ベンチの設置) ・ 運行時刻に余裕がなく、運行遅延が次の便に影響 ・ 無料となる証明証が分かりにくい ・ 乗継券の運用が曖昧 ○利用促進策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の観光案内への対応。利用者の利便性、快適性の向上
鯖江地区 ハイヤータクシー業会	<ul style="list-style-type: none"> ○利用実態 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の通院、買い物、駅等への送迎、緊急時の外出、イベント会場への送迎 ・ 利用者数は減少 ○運営上の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者減少、燃料費の高騰により厳しい運営状況、コミュニティバスとの競合状況にあり、棲み分けが必要
鯖江市区長会連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通は概ね市民のニーズに対応したサービスを提供 ・ デマンド方式は、予約または取り消しの際の抵抗の緩和が必要 ・ より柔軟な対応で、気軽に利用できる環境づくりやそのPRが必要 ・ 地域の市民ニーズに合わせた見直しを行うには、公共交通に関する地元の要望をとりまとめるシステムづくりが必要
鯖江市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の外出目的は、通院や買い物が中心 ・ 目的の施設の利用に配慮した運行本数や運行経路の検討が必要 ・ つつじバスで対応できないところは、タクシーで補う (補助券の発行) ことを検討すべき

名 称	概 要
鯖江市連合女性会	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生等の通学で家族送迎が多く、家族の負担が大きいため、通学の利便性の改善が必要 ・つつじバスの積雪期における運行経路短縮の改善 (狭幅員区間は小型の車両を運行) (バイク、自転車が使えない季節にこそ、利用したい) ・バス停までの距離の短縮 (高齢者の通院には、バス停までの距離も大きな負担)
福井工業高等専門学校	<ul style="list-style-type: none"> ・つつじバスは、本数が少ないため、始業時間等に対応したダイヤの見直しや下校時のJR鯖江駅への直行便の運行 ・福鉄バスとつつじバスの連携・直通運行 ・家久駅～サンドーム西駅間の新駅の早期設置 ・子供、学生に対する公共交通の大切さ、魅力についての啓蒙
福井県立鯖江高校	<ul style="list-style-type: none"> ・つつじバス：冬期の通学時間に対応したバスの運行 運行本数の増加 ・JR鯖江駅：特急の停車本数の増加。駅周辺の無料駐車場の設置 ・部活動での公共交通利用時の団体割引制度の創設(5～6名程度)
福井県立丹南高校	<ul style="list-style-type: none"> ○つつじバス(丹南高校線) <ul style="list-style-type: none"> ・JR鯖江駅からの直通バスで便利 ・運行本数が少ないため、利用できないことがある ・JR北陸線の上りとの接続の改善 ○公共交通全般 <ul style="list-style-type: none"> ・つつじバスをはじめ、JR、福武線ともに通学に不可欠な公共交通であり、存続はもちろん、登下校の時間に対応した運行ダイヤの改善
鯖江市交通対策協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線開業後の並行在来線の運行本数の確保と新幹線への乗継利便性の確保 ・バス停での待合環境の改善が必要(上屋、ベンチ等)
鯖江商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> ・つつじバスは、便数に限りがあるので、通勤通学、通院、買い物等の目的にあわせてダイヤを設定する ・現在、公共交通の駅やバス停等の近くに居住している人を中心に公共交通のメリット、特典をPRし、利用を呼びかけ、利用者を増やす。さらに、利便性、経済性を高める努力をする
鯖江観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・鯖江市民が新幹線開業後に利用する駅を把握したうえで、それに対応した公共交通体系の検討が必要 ・公共交通の運行経路や乗換等の情報案内をはじめとする利用環境の整備が必要 ・つつじバスのデザインの刷新
越 前 市	<ul style="list-style-type: none"> ・越前市のコミュニティバス「のろっさ」の運行状況、河和田地区との連携、丹南総合公園へのアクセス、南越駅(仮称)へのアクセスの考え方等
越 前 町	<ul style="list-style-type: none"> ・広域的な連携の方向性として、福鉄バス鯖浦線等による越前町との連携(越前町⇄神明駅(通勤通学等)、立待地区、吉川地区⇄越前町(朝日地区)(買い物等))